THE PRESS ザ・プレス 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：http://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

第26回文化祭 国際交流を次世代へ

国際色豊かな展示・発表

第26回文化祭が9月16日、「NEXT GENERATION ～次世代へつなげる国際交流・国際貢献～」のテーマのもと、盛大に開催された。その日の模様を写真とともにお伝えする。

文化祭は短大体育館での講演会からスタート。講演は、越境会の石田和康氏による「越境せよ！」。石田氏が訪れた国々を例に、日本との関係性や変わりつつある国について講演した。「国の名前を聞いただけで自分の中でイメージ付けることは古い考え方。国は今も変わり続けている」と生徒に語りかけ、日本人には当たり前なものが、海外では革新的な商品になると、サラダドレッシングなどを例に挙げ説明していた。石田氏のユニークな体験もふまえた講演に、生徒は終始笑顔も見せつつ真剣に聴いていた。

続いて、ステージ発表の部に移った。まず、生徒会執行部による18歳選挙権の意見発表が行われ、投票の責任などについてのスピーチが行われた。生徒は投票することの大切さを理解し、選挙に対する知識がより深まったようだ。

次に、日本ユネスコ協会主催「第3回高校生カンボジアスタディツアー」に参加した金澤兼資君（3H）による報告発表。カンボジアの子ども達の学校、学習や、折り紙を教えたことなどを発表していた。

3年1組国際英語コースから長期留学をしていた生徒のうち、アメリカに留学していた生原祐希くん、カナダに留学していた安村友花さんが、それぞれの国の特徴や体験したこと、学んだことをプロジェクターを使い、現地で撮った写真などを交えてネイティブ仕込みの英語で発表していた。とても充実した留学になったようだ。

続いて、1年生音楽選択者による混声合唱。課題曲は校歌と、綯香の「にじいろ」の発表が行われた。練習の成果を存分に披露し、発表者の美しい歌声で会場全体を魅了していた。

今年からはクラスCMの上映会も行われた。それぞれのクラスの個性や工夫があふれ、ユニークなCMを生徒たちは楽しそうに鑑賞していた。

続いて、メディアテクノロジー部による研究発表。最先端の技術を活用した、ハイレベルな研究を発表していた。吹奏楽部は「国際ヒットパレード2016」と題し、吹奏楽ではお馴染みの3曲を演奏した。迫力ある演奏に、生徒は盛大な拍手を送っていた。

校舎内では、1・2年生の各クラスがテーマに沿って制作した作品展示や研究発表が行われた。3年生は生徒有志が前庭で模擬店を開店。エントランスではPTAの方々によって最中アイスが無料提供された。各文化部も展示室を設置。茶道部が行ったお茶会には多くの人が集まり、貴重な茶道体験に目を輝かせていた。また、家庭部は毎年恒例の「シフォンケーキの会」を行い、大勢の人で賑わった。

閉会式では、作品コンクール最優秀賞と優秀賞の他、CM部門賞、ポスター部門賞が発表された。最優秀賞に輝いたのは、11Hのファッションショー「Passion for fashion world traditional style ～11collection ～」。生徒たちがクラスをランウェイに見立てて世界の様々な衣装を身にまとった姿で多くの観客を魅了していた。同じくCM賞、ポスター賞も11Hが総なめした。

【寺林大輝】

文化祭写真グラフ

飛び込み 長澤明生さん（15H）インターハイで見事優勝

8月のインターハイ（2016中国総体）に飛び込み競技で出場した長澤明生さん（15H）が、中しず玖選手（石川県・小松市立高校2年）とペアを組んだ女子シンクロ3メートル飛板で見事、優勝した。富山県最強の女子飛び込み選手が、全国レベルでも快挙を成し遂げた。新聞部は、期待の星、長澤さんに独占取材した。

華麗な飛び込みを見せる長澤さん（下）＝福山市ローズアリーナ

独占インタビュー 新しい技を日々練習中です

長澤明生さん

この種目は「シンクロナイズドダイビング」。1998年にオーストラリアのパースで開催された世界選手権で初めて行われ、2000年のシドニー五輪からオリンピック正式種目となった。2人1組の選手が同時に演技を行い、その演技の完成度と2人の同調性（シンクロナイゼーション）により順位を競う。得点の占める割合は演技が40％、同調性が60％で、良い演技をしても2人のタイミングが合っていなければ高い得点を得ることができない。3メートル飛板飛び込みと10メートル高飛び込みの2つの種目がある。

当日はライバル選手が多く出場しており、公開競技だったためギャラリーも多数いて緊張したが、目標を達成できてうれしかったそうだ。しかし、まだ実感が湧いていないそうで家族や友達に「おめでとう」「すごいね」と声をかけられるたびにうれしい気持ちになるのだとか。クラスメートも「こんなに身近にすごい人がいるなんて誇らしい」と話す。

長澤さんが飛び込み競技に出会ったのは、小学3年生の頃。高い所でも平気だと知っていたお母さんの勧めで、体験教室に参加したのがきっかけだった。その頃からずっと、県内で第一人者である本校の坂田芳眞先生（英語）から技術的な指導を受けている。今まで長澤さんを支え、苦しい時も見守ってくれたのはお母さんの存在があってこそ。練習場への送迎も毎日のようにしてくれた。

長澤さんの練習時間は、日によって前後することもあるが、1日約4時間。夏は高岡市の県高岡総合プールで10メートルもの高い飛び込み台で、冬は陸上トレーニングや低い飛び込み台、県外のプールで練習をすることもある。現在、新しい技の練習をしているそうで、10メートルの高さから3回転半する高度な技にチャレンジしている。他にも新しく練習している技はあるが、これが一番難しいと思っているとのこと。うまくかなかった時や、水面に体を強く打ち付けた時は、恐怖心から簡単な技も飛べなくなったことがあったそうだ。

長澤さんの目標は、高校生で今夏のリオ五輪に出場、8位に入賞した板橋美波選手（兵庫県・甲子園学園高校2年）。「板橋選手のような飛び込みをしたい」と目を輝かせる。そして「今シーズンは、とても良いシーズンでした。来年も再来年も頑張るので、応援よろしくお願いします」と笑顔で語った。

坂田先生は「日の丸を背負って活躍できる選手になるのは簡単ではない。精神面、技術面ともに強くなり、富山県勢では僕以降、飛び込みの国際大会に出場した選手はいないので、いずれ出場してくれることを願っている」と話していた。

長澤さんのさらなる活躍、そして、4年後の東京五輪で勇姿が見られることを期待したい。

【寺林大輝・山本詩乃】

1位の表彰台に上がる長澤さん（左から2人目）

長澤さんの今シーズンの戦績

大会名	日程	種目	成績	備考
日本室内選手権（東京）	6月3～5日	女子高飛込	12位	
		女子3m飛板飛込	20位	
第69回富山県高等学校選手権	6月19日	女子高飛込	1位 372.20	北信越高等学校選手権出場権獲得
		女子3m飛板飛込	1位 428.05	北信越高等学校選手権出場権獲得
		女子団体	1位	
第32回北信越ジュニアオリンピック（長野）	7月22～24日	女子16～18才高飛込	1位	全国JOCジュニアオリンピックカップ出場権獲得
		女子16～18才3m飛板飛込	1位	全国JOCジュニアオリンピックカップ出場権獲得
北信越高等学校総合体育大会（長野）	7月22～24日	女子3m飛板飛込	1位	インターハイ出場権獲得
		女子高飛込	1位	インターハイ出場権獲得
		学校対抗	1位	
全国高等学校総合体育大会（広島）	8月17～20日	女子高飛込	6位	
		女子3m飛板飛込	11位	
		学校対抗	8位	
第39回全国JOCジュニアオリンピック（大阪）	8月21～25日	女子シンクロ3m飛板飛込	1位	公開競技
		女子16～18才3m飛板飛込	3位	
		女子3mシンクロ飛板飛込	3位	
		女子16～18才高飛込	10位	
第71回国民体育大会（岩手）	9月9～11日	少年女子3m飛板飛込	10位	
		少年女子高飛込	11位	
第92回日本選手権（東京）	9月16～18日	女子3m飛板飛込	15位	
		女子3mシンクロ飛板飛込	3位	
		女子高飛込	7位	

生徒会 坂井生徒会長にインタビュー

必要最低限のマナー身につけて

7月に選出された生徒会の坂井執行部。坂井拓之会長（28H）は、国際高のために様々なプロジェクトを企画し、活気ある学校にしようとしている。最近の国際生の現状や生徒会の活動について、インタビューを行った。

生徒会では10月19～21日、PTAと連携して「秋の高校生さわやか運動」を行った。坂井会長は「あいさつは社会の常識。相手の目を見てあいさつしたり、お辞儀をしたりするのは礼儀作法として大変大切です。しかし、玄関に立っていると、無言で通り過ぎて行ったり、目を見ずに小さな声であいさつして行く人など、まだまだ身についていない人が多くいるのが国際生の現状ですね」と話す。また、マナーに対しての意識が低いという現れだと指摘した。

また、生徒会ではお隣の富山短大と連携し、バス停のゴミ箱のゴミ交換を2か月ローテーションで行っている。8、9月に行ったため、夏休み中ということもありゴミは少なかったが、過去の記録にはポイ捨てがあったり、ゴミ箱ではない所にゴミが置かれていたりしたと書かれているそうだ。坂井会長は「これも当然、マナー。自分のゴミは自分でしっかり処理してほしい」と話した。

他に生徒会の活動として、自転車の鍵かけチェック、自転車置き場の整頓を行っている。毎日この活動をしているが、自転車の置き方がなっていないと感じるそうだ。「自転車が倒れているにも関わらず放置したり、大幅に列からはみ出していたり、直すのがとても大変。皆さん気をつけてください」とのこと。「鍵かけ率」の方は、昨年は生徒の協力のおかげで、コンテストで受賞することができた。「皆さん一人ひとりが鍵をかけ、盗難防止を心がけてほしい」と語った。

生徒会が趣旨に賛同して取り組んでいる、ユニクロの「届けよう服のチカラプロジェクト」では今回、過去最高のダンボール11箱分の子ども服が集まった。坂井会長は「皆さんの協力のおかげです。私自身、当たり前のように思って無駄になっていることがありますが、その無駄が実はすごく大切なものだと思います。このプロジェクトのように、人の役に立てる活動ができて大変うれしいです。皆さん、これからも協力してください」と訴えていた。

生徒会長として、国際高をインターナショナルで明るい学校にしていきたい、と就任時に話していた坂井君。それに加えて「生徒の皆さんの言葉遣いやあいさつを正していき、社会に必要最低限のマナーを備えて卒業してほしいと思います」と熱く語った。

これらのようなプロジェクトを推進し、開かれた生徒会執行部にするため、エントランスに設置されている目安箱を積極的に利用して、これからも生徒会に意見を寄せてほしい」と話している。

新聞部では、生徒会の動きを今後も継続的に取り上げる。

【山下紋依】

かざぐるま

近年、日本が外国人に人気の旅行先として注目を浴びている。外国人旅行客数は今もなお増え続けており、今年8月には去年よりも早く200万人の大台を突破した。外国人が日本に魅了される理由として、四季の移り変わりがあること、アニメやマンガ、忍者や和服などの伝統文化など様々らしい。その中でも、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている「和食」は、外国人にとって大きな訪日目的のひとつだろう★寿司やうどんといった和食の魅力は、ヘルシーで美味しいところだ。和食はご飯と味噌汁を基本に、おかずは野菜が豊富で肉より魚が主菜になることが多い。そして、豆を原料とした食品や調味料が多いことも、ヘルシーな印象を外国人に与えている。世界的に活躍しているトップモデルやセレブ達も、日本食を好んで食事に取り入れている人が多いのだとか★日本食の魅力は、料理の美味しさだけにはとどまらない。日本特有の四季を生かし、器の大きさや色、料理の盛り付けにこだわっていることも大きい。例えば、夏には涼しげな器を選んだり、器の中に野菜の飾り切りを加えて料理を華やかにしたり、といった工夫だ。これは、季節の移り変わりを日常的に肌で感じている日本人特有の表現方法だろう★最近、外国の食文化の影響や、ライフスタイルの変化に伴って「一汁三菜」が日本の食卓に並ぶことが少なくなってきている。それは、よく報道されているメタボリックシンドロームなどをはじめとする生活習慣病患者の多さからも読み取れる。時にはゆっくりと、日本人らしいご飯、味噌汁、魚や野菜などの和食の味を思い出してはいかがだろうか。国際社会に日本が進出し続けている今、他国の文化を取り入れるだけでなく、自国の文化をもう一度再確認して、来日する外国人に五感で楽しんでもらえばよい。

【山本詩乃】